

新除草・調節剤

マツバイ・ミズガヤツリなどの除草，林野におけるシタ類防除等に開発されつつある。（なお本剤の日本における商品名は未定であるが，諸外国では，トードン 22K，として使用されている。）

ロンパー

S — 41 乳 剤

室町化成株式会社
日本農薬株式会社
東洋棉花株式会社

成分，作用特性：本剤は有効成分 N-(β -0,0-ジイソプロピル-ジチオフオスフオリルエチル)-ベンゼンスルホンアミド 50% を含む乳剤である。本剤は，コーライ芝，ペントグラスなどに選択性があり，メヒシバ，オヒシバ，スズメノカタビラなど芝生内のイネ科一年生雑草の防除に効果的に使える土壌処理型除草剤である。残効性は，極めて長い。

使用方法：2月下旬～4月，又は8月下旬～10月の雑草の発生前に10アール当り製品2,000～3,000ccを200～300ℓの水にとかして散布する。

使用上の注意としては，雑草が2葉以上になると効果が劣るので，必ず発芽前から発芽時まで使うこと。ターフを形成していないペントグラスには，葉害があるので使用しないこと。

殺菌剤および化学肥料との混合散布ができるが有機質肥料との混合はさけること。

キャンパロール

CAT・プロメトリン水和剤

日本化薬株式会社
イハラ農薬株式会社
日産化学工業株式会社
日本農薬株式会社

本剤（試験名A1808）はすでに麦類，休閑田，陸稲，落花生等を対象として実用化に移されているもので，今回は桑園を対象として実用化に移されたのでこれを中心として使い方を説明する。

成分，作用特性：本剤は，2-クロル-4,6-ビス-エチルアミノ-S-トリアジン（CAT）14.0%と2-メチルチオ-4,6-ビス-イソプロピルアミノ-S-トリアジン（プロメトリン）86.0%を有効成分とする混合剤である。

本剤は，非ホルモン型の移行性除草剤であるが，性格を異にする代表的な2種のトリアジン系除草剤を混剤化することにより，草種選択性を少なくし，土壌処理剤の効果とともに，雑草処理剤としての効果を期待できる。

特に散布液に非イオン型の界面活性剤を加用することにより，草丈20～30cmの雑草を枯殺することができ，その後長期間雑草の発生を防止するので，桑園等には最適の除草剤である。

毒性については，マウス，ラツテとも急性経口毒性LD50がCAT・5,000mg/Kg以上，プロメトリン：8,750mg/Kgとほとんど無害で，魚毒も極めて低く，実用上心配ない。

使用方法：桑園の場合，春期雑草発生初期